

食用廃油再生燃料化装置 EOSYS-100M

バイオディーゼル装置 シェアNo. 1 導入台数 600 台突破！

温暖化対策・CO2削減に絶大な効果を発揮！
CO2削減量 年間約 100t ※月間3,500Lのバイオディーゼルを使用した場合

極めてコンパクト

幅と奥行きは75cm×75cmの正方形。高さは146cm。家庭用洗濯機サイズ。

画期的な精製スピード

100Lの食用廃油をわずか6時間でバイオディーゼル燃料化。1日200Lの精製も可能。

シンプルな操作性

簡単なボタン操作とタイマー・温度設定のみ。

省スペースで設置可能

作業スペースは、わずか2坪でも可能。キャスター付きで移動も簡単。



改良の為仕様や形状が相違することがあります。
予めご了承下さい。



EOSYS BY SEBEC

イオシス EOSYS-100M (旧名:EOSYS-50) 基本性能

製造能力 100L/約6時間
サイズ H1460mm×D750mm×W750mm
重量 約140kg (乾燥重量)
動力 電気 三相200V 5.2kw 30A
操作方式 手動運転 (半自動)

設置条件 室内水平設置 室温0～40℃
給湯 60℃程度の温水

株式会社セベック
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-33-4階
TEL.03-3515-2151 FAX.03-3515-2152
<http://www.sebec.co.jp> <http://eosys.jp/>

食用廃油再生燃料化装置 EOSYS-200M

Bio Diesel Plant EOSYS 「イオシス」

植物性食用廃油を高品位な
軽油レベルにまで燃料化する
食用廃油再生燃料化装置です。

コンパクト

幅と奥行きは、106cm×106cmの正方形。高さは、151cm。

画期的な精製スピード

200Lの食用廃油をわずか6時間でバイオディーゼル燃料化。
1日400Lの精製も可能。

シンプルな操作性

簡単なボタン操作とタイマー・温度設定のみ。

省スペースで設置可能

キャスター付きで移動も可能。



EOSYS-200M 基本性能

製造能力	200L/約6時間 (1 バッチ)
サイズ	H1,510mm×D1,060mm×W1,060mm
重量	約160kg (乾燥重量)
動力	電気 三相200V 9.8kw
操作方式	バッチ式半自動
設置条件	室内水平設置 室温0～40℃ 給湯 60℃程度の温水



EOSYS BY SEBEC

株式会社セベック
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-33-4階
TEL.03-3515-2151 FAX.03-3515-2152
<http://www.sebec.co.jp>

使用済み天ぷら油などの食用廃油を バイオディーゼル燃料にリサイクル

「バイオディーゼル」概要

バイオディーゼルとは、菜種油、食用廃油等の油脂をメチルエステル化等の化学処理をして、ディーゼル自動車用燃料等として使用するものです。
1900年にパリで開かれた万国博覧会で、ディーゼル機関の発明者、ルドルフ・ディーゼルがエンジンを初めて披露したとき、使われていた燃料は、なんと100%ピーナッツ油でした。
1973年のオイルショック後、世界に先駆けてオーストリアで植物油をディーゼル燃料として使用する検討が開始。その後、世界各国に広がりを見せました。
既に、さまざまな国において国策として導入が勧められておりその市場規模は拡大傾向にあります。
近年においては、CO₂削減やエネルギー問題などを背景に、さらに注目を集めています。

バイオディーゼルの特徴

- ・植物系燃料であるため、地球温暖化防止協定上のCO₂排出量はゼロカウントとなります。
- ・多くの疾病原因とされている黒煙は約3分の1以下に減少します。
- ・小児ぜん息・アトピー・酸性雨などの原因といわれている硫黄酸化物(SO_x)は、排ガス中にほとんど含みません。
- ・環境・安全の観点からの法律をクリアしており、公道走行可能な軽油代替燃料です。
- ・改造等必要なく、市販のディーゼル車に使用できます。
- ・100%使用であれば、軽油引取税は課税対象外となります。
- ・軽油と同等の燃費と走行性能です。

原料となる食用廃油の現状

食用廃油の発生状況は、
業務用 約34～39万t/年
家庭用 約20～25万t/年

有効利用されていない食用廃油は、燃えるゴミとして捨てられたり、そのまま水に流されたりしています。

バイオディーゼル事業の流れ

- ・地域の飲食店などから食用廃油を回収
- ・装置「EOSYS」で、バイオディーゼル燃料化
- ・軽油代替燃料として使用・販売



CO₂
ゼロカウント



バイオディーゼル精製フロー

食用廃油にメタノールとアルカリ触媒を加えエステル交換反応と呼ばれる化学反応をさせ、軽油性状と同等なメチルエステル(バイオディーゼル燃料)を取り出します。その後、洗浄、すすぎ、脱水工程を経てバイオディーゼル燃料が完成します。

